

平成 26 年度入学生対象

別記様式1

平成 26 年 2 月 14 日作成

主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

開設学部（学科）名〔教育学部第三類（言語文化教育系）英語文化系コース〕

プログラムの名称（和文）	中等教育科学(英語)プログラム
（英文）	Secondary School English Language Education
<p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>中等教育科学（英語）プログラムでは、主として中学校英語科教員、高等学校英語科教員を養成する。</p> <p>本プログラムは、英語による高度なコミュニケーション能力を基盤に持ち、中学校、高等学校の英語科教育を実施するに際して必要な、英語教育学、応用言語学、英語学、英語文化学、英語文学、異文化コミュニケーションなどの人文・社会諸科学、および英語教育の基礎・基本となる教科内容についての知識、技能および態度などを体系的に身につけ、学習者の発達段階、学習段階に応じた英語授業を構想・展開したり、新たに応用・発展的な学習を組織したりできる高度の実践的教育力を有した人材を育成することを目標にしている。</p> <p>本プログラムは、中等学校教員養成を主目的としたプログラムであるが、卒業生が英語教育や英語言語文化に関連した大学院に進学し研究者としての進路を目指したり、また、国内・国外で公共団体や企業、教育系産業など多様な職種においても高度専門職業人として活躍したりできるように、基礎から応用に至る知識、能力、技能を育成することにも十分配慮している。</p>	
<p>2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）</p> <p>プログラム開始（選択）時期は、1年次である。</p>	
<p>3. プログラムの到達目標と成果</p> <p>（1）プログラムの到達目標</p> <p>本プログラムでは、中等英語教員（中学校・高等学校）として必要な次のような能力の育成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 英語での高度なコミュニケーション能力を身につける。2) 国際語である英語や英語文化に関する研究を基盤として、教育内容や教材を分析し、開発することができる。3) 広く発達段階における英語教育を、原理・方法・内容等の面から専門的に探求し、英語授業を分析構想・立案し、遂行できる。4) 国際社会にふさわしい英語教育の普及に指導的役割を發揮できる。 <p>本プログラムにおける教養教育は、専門教育への基盤作りの役割を担い、教育学、心理学を含む人文科学、社会科学に関する基本的かつ体系的な知識を習得するとともに、主たる外国語としての英語、および基礎的な第二外国語能力を向上させ、現代社会における教育ニーズに応えることのできる総合的な資質や能力を養成する。</p> <p>（2）プログラムによる学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）</p> <p>○知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none">1) 中等学校とその教育に関する基本的理解2) 青年期の学習者に関する基礎的な理解3) 中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識4) 中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識	

○知的能力・技能

- 1) 中等英語教育のカリキュラムを分析したりデザインしたりすることができる。
- 2) 中等英語教育の教育内容を分析したり研究したりすることができる。
- 3) 中等英語教育に関連した調査・研究に関して、批判的に分析・検討することができる。

○実践的能力・技能

- 1) 中等英語教育における授業を分析，構想・立案することができる。
- 2) 中等英語教育において、適切な教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる。
- 3) 中等英語教育において、評価計画に基づいて、生徒の学習を評価することができる。
- 4) 中等英語教育において、教材を分析したり研究したりすることができる。

○総合的能力・技能

- 1) 個人あるいは共同で中等英語教育に関わる研究を計画・実施し，その成果を効果的に伝えることができる(研究力・プレゼンテーション力)。
- 2) コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を活用することができる。(情報技術活用力)
- 3) 多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み，個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し，課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ(社会協調性)
- 4) 高度な英語運用能力を獲得している。(英語運用力)

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類，必要な単位数)

本プログラムが提供する学位は，学士(教育学)である。その取得には，本プログラムで実施される授業科目を選択履修することによって128単位を修得することを条件としている。その内訳は，教養教育科目32単位，専門基礎科目14単位，専門科目44単位，専門選択科目20単位、自由選択科目12単位，卒業研究(論文)6単位とする。

(2) 得られる資格等

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより，中学校教諭一種免許(英語)及び高等学校教諭一種免許(英語)を取得できる。さらに，特定プログラムを追加履修すると，学芸員，社会教育主事，学校図書館司書教諭などの資格も取得が可能である。

(3) プログラムの構造

第1ステップにおいては，教養教育科目(教養ゼミ，外国語科目等)のほか，専門基礎科目(「英語コミュニケーション演習Ⅰ」)等を履修し，1年次終了までに教養教育科目を累計16単位，専門教育科目を10単位以上，修得する。

第2ステップにおいては，教養科目(外国語科目，総合科目など)のほか，専門基礎科目(「英語教育学概論Ⅰ」等)の履修に加えて，専門科目(「英語教材構成論」「英語授業プランニング論」「英語教育文法入門」等)および専門選択科目，自由選択科目を履修し，2年次終了までに教養教育科目を累計28単位，専門教育科目を累計46単位以上，修得する。

第3ステップにおいては，残りの専門基礎科目(「英語学概説Ⅱ」等)の履修に加えて，専門科目(「英語教育カリキュラム論」「英語教育教材研究」「英語教育のための異文化理解」「英語教育史」等)の大部分と専門選択科目，自由選択科目を履修し，3年次終了までに教養教育科目を累計28単位，専門教育科目を累計84単位以上，修得する。

第4ステップにおいては，専門科目及び専門選択科目，自由選択科目を履修するとともに，卒業研究(卒業論文)を中心に履修する。4年次終了時点で，教養科目を累計32単位以上，専門科目，専門選択科目，

自由選択科目を累計96単位以上、修得する。

以上の履修の流れについては、別紙2を参照。

(4) 卒業論文(卒業研究) (位置付け、配属方法・時期等)

○目的

卒業論文は、本プログラムがめざす中等教育科学(英語)教員養成の到達点であり、さらには大学院への進学及び教育現場での実践研究への橋渡しとなる。それまでに身につけた、英語教員としての必要な基礎・専門的知識、技能、態度を活用しながら、実際の教育研究場面に使用したり、文献資料研究を行ったりしながら、自らの達成水準を見極め、さらに発展・深化を促すことを目的としている。

○概要

中等教育英語の領域である英語教育学、英語学、英語文化学の3領域から1研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各自が選択する研究テーマについて研究を進め、4年次10月末までに研究題目を決定し、11月の所定期日に中間発表を実施し、1月末日に卒業論文を提出する。

○配属時期と配属方法

3年次後期に、卒業研究への導入として「英語教育研究法」を全員が履修する。その単位が修得できれば、3年次終了時に主要な研究領域を選択して、卒業論文指導教員を決定する(ゼミ分け)。4年次に卒業論文作成を行う。

5. 授業科目及び授業内容

別紙3参照

シラバスは、「Myもみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照してください。

6. 教育・学習

(1) 教育方法・学習方法

別紙1参照

(2) 学習支援体制

○教員による支援

- 1) チューター制度: 1年次から3年次までは学年チューターが主担当として指導し、4年次には学年チューターと卒業論文指導教員が共同で指導する。
- 2) 卒業論文: 3年次終了時から卒業論文指導教員が指導する。
- 3) プログラム教員会: 英語文化教育学講座の教員全員があたり、学生の学習体制を確立する。
- 4) 講座支援室: 英語文化教育学講座が、本プログラムにおける教育の支援にあたる。連絡窓口は、英語文化教育学講座事務補佐員(教育学部A棟2階213室)である。
- 5) 講座図書室: 英語文化教育学講座図書室(A213)の図書、海外・国内文献資料、情報関連機器を活用し、学習・研究を支援する。また教員研究室にある図書も文献データベースによる検索、貸出を迅速に行う。

7. 評価(試験・成績評価)

(1) 到達度チェックの仕組み

○個人成績

- 1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可及び不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算方法により、GPAとして累積する。
- 3) 学年ごとに、GPAを算出し、個人の基本成績レベルが確認できるようにする。

4) 各学年で、評価項目ごとに到達度を確定し、個々の達成水準を明示する。

○成績評価

- 1) 1年次、2年次、3年次には、取得単位数と成績達成水準により、次年次への進級が判断される。
- 2) 未達成者には、問題点と課題が提示される。本来の水準に達したときに、次年次に進級できる。
- 3) 4年次では、これまでの成績、卒業要件単位数、評価項目ごとの達成度に加味して、卒業論文の成績により、本プログラムでの総合的な成績評価が提示される。

(2) 成績が示す意味

別紙4参照

8. プログラムの責任体制と評価

(1) PDCA責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

本プログラムは、主として教育学部英語文化教育学講座のスタッフによって遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者(英語文化教育学講座の主任)にある。計画・実施、評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

(2) プログラムの評価

○プログラム評価の観点

本プログラムでは、教育的効果と社会的効果を評価の観点にする。教育的効果では、プログラムの実施自体における学生の在学中を中心とした学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習による結果として、主として卒業後の進路から見たプログラムの社会的有効性を判定する。

○評価の実施方法(授業評価との関連も記載)

本プログラムは、上述の評価観点到に従い、原則として4年次にプログラム自体の成果を評価する。第1の教育的効果に関しては、本プログラムを履修した学生の到達率(卒業要件の充足と中等英語教員資格の充足)による評価、外部公的機関による英語運用力の資格取得状況、および、担当教員グループによる総合的評価によって、評価を実施する。ここでは単位充足率とともに、教員の総合評価に基づいて、本プログラムの到達水準まで各学生が達したかどうか、学生全体としてはどのような割合で達したのかを調査し、75%以上の達成率があるかどうかを点検する。

第2の社会的効果に関しては、卒業年次および卒業後の学生の教員採用試験合格率による評価、採用後の英語教員としての成長度による評価として実施される。本プログラムを履修した学生が教員を目指した場合、どのような形態で採用され、また、いつ、どの時点で、本採用教員になったのか、数年おきに追跡調査を実施し、教員としての成長度合いを総合的に評価する。

○学生へのフィードバックの考え方とその方法

プログラムの評価結果はプログラム担当委員会において、その内容と方法について見直し、改善、充実を図るとともに、学生指導、ゼミ指導、各授業科目の効果を検討し、その結果を3年次までのプログラムの運営・実施に積極的に反映させる。

※担当教員リストは、別紙5を参照。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解 (Knowledge and Understandings)

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中等学校とその教育に関する基本的理解 2) 青年期の学習者に関する基礎的な理解 3) 中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識 4) 中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識 	<p>教育・学習の方法</p> <p>英語教育における基礎・基本的な知識・理解（1～4）は、中等プログラム共通基礎科目、英語文化系プログラム基礎科目と発展科目における講義、演習など、また授業において課される学習、協同活動、レポート作成、などを通して、獲得できるようにする</p> <p>評価</p> <p>知識・理解（1～4）は、各授業を通して行う中間試験や期末試験、および課題や中間・期末レポートを通して評価する</p>
--	---

○ 知的能力・技能 (Intellectual Skills)

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中等英語教育のカリキュラムを分析したりデザインしたりすることができる。 2) 中等英語教育の教育内容を分析したり研究したりすることができる。 3) 中等英語教育に関連した調査・研究に関して、批判的に分析・検討することができる。 	<p>教育・学習の方法</p> <p>知的能力・技能（1～3）は、プログラムの各授業における講義、演習を通して、基礎・基本的な能力・技能を獲得するとともに、フィールドワークや海外研修を通して、さらにグループワークや卒業論文の作成などに向けたチュートリアルを通して、より高度な知識・技能に発展させる</p> <p>評価</p> <p>知的能力・技能（1～3）は、プログラムの各授業における個別・グループ学習や課題レポートを通して評価する。卒業論文では知的能力・技能の最終発達段階として、資料・情報のより高度な理解と批判的分析・検討に到達しているかを規準として評価する</p>
--	--

○ 実践的能力・技能 (Practical Skills)

身につく知識・技能・態度等

- 1) 中等英語教育における授業を分析，構想・立案することができる。
- 2) 中等英語教育において、適切な教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる。
- 3) 中等英語教育において、評価計画に基づいて、生徒の学習を評価することができる。
- 4) 中等英語教育において、教材を分析したり研究したりすることができる。

教育・学習の方法

実践的能力・技能（1～4）は，演習，実習，マイクロティーチングなどを通して，カリキュラム開発，教材開発，学習指導案作成，課題レポートなどの実践的な課題遂行学習を通して身につける。さらに，卒業論文においても課題発見，仮説設定・検証のプロセスを通して，教育内容や教育方法に関する実践研究能力を高める

評価

実践的能力・技能（1～4）は，実践・開発課題遂行のプロセス及びその結果により事前・事後比較の観点を取り入れながら評価する

○ 総合的能力・技能 (Transferable Skills)

身につく知識・技能・態度等

- 1) 個人あるいは共同で中等英語教育に関わる研究を計画・実施し，その成果を効果的に伝えることができる(研究力・プレゼンテーション力)。
- 2) コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を活用することができる。(情報技術活用力)
- 3) 多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み，個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し，課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ(社会協調性)
- 4) 高度な英語運用能力を獲得している。(英語運用力)

教育・学習の方法

総合的能力・技能（1～4）は，プログラム全体を通じて発達させるものであるが，基礎的能力は教養的科目の教養ゼミ，情報活用演習，及び中等プログラムの総合演習を通して重点的に身につける。また，応用的能力はプログラム中の専門科目の講義，演習，フィールドワークなどを通して，遭遇する課題解決を通して身につける。さらに，発展的能力は卒業論文や実習を通して協同作業を重ねながら，現実の問題発見・解決のプロセスを通してより高度の能力を身につける

評価

総合的能力・技能（1～4）は，プログラム全体において総合的，継続的に評価する。特に，卒業論文の作成プロセスにおける研究の方向や方法について，及びその結果の発表能力や，将来につながる発展的課題探求能力において学生がどのレベルまで到達したかを確認できるようにする

別紙2 主専攻プログラム モデル体系図

教育学部 中等教育科学(英語)プログラム

	(専門教育における) 学習の成果	教養教育到達目標	1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	中等学校とその教育に関する基本的理解	1. 多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べることができる。 2. 理念と現実の葛藤を含め、平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し、説明できる。	平和科目(○)		教育と思想の原理(○)	特別活動指導法(○) 教育と社会・制度(○)	教育課程論(○)	教育方法・技術論(○)		
	青年期の学習者たちに関する基礎的な理解				生徒・進路指導論(○)		教育相談(○)			
	中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識				英語教育学概論Ⅰ(◎)	英語教育学概論Ⅱ(◎)				
知的能力・技能	中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしくみと科学の在り方、知の営みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。	英語文学概説(◎) パッケージ科目(○)		英語教育文法入門(○)	英語学概説Ⅰ(◎)	英語学概説Ⅱ(◎)	英語教師のための異文化理解(○)		
	中等英語教育のカリキュラムを分析したりデザインしたりすることができる						英語教育カリキュラム論(○)			
	中等英語教育の教育内容を分析したり研究したりすることができる	特定の学際的・総合的なトピックス又は研究の最前線や社会問題のトピックスについて、複数の視点から説明できる。		英語教師のための音声学(○)	英語圏エアスタディⅠ(○) 英語圏エアスタディⅡ(○)	英語教材研究ワークショップ(○)		英語教育文法(○)	現代社会の英語使用(○)	
実践的能力・技能	中等英語教育に關連した調査・研究に關して、批判的に分析・検討することができる				総合科目(○)			英語教育研究法(◎)		
	中等英語教育における授業を分析、構想・立案することができる						英語授業プランニング論(○)			
	中等英語教育において、適切な教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる						英語教育方法論(○)			
	中等英語教育において、適切な教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる							英語教育評価論(○)		
	中等英語教育において、教材を分析したり研究したりすることができる					英語教材構成論(○)	英語教育教材研究(○)	コミュニケーション能力と英語教育(○)		

総合的 能力・ 技能	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる研究を計画・実施し、その成果を効果的に伝えることができる(研究力・プレゼンテーション力)	1. 基礎的な方法で資料を収集できる。 2. 特定の事象から課題を発見し、説明できる。 3. 論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。	教養ゼミ(◎)							英語教育学研究(◎)	卒業論文(◎)
	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を活用することができる。(情報技術活用力)	1. 情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明できる。 2. 情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を適切に行うことができる。	情報科目(○)	英語教師のためのコンピュータ入門(○)						英語学研究(◎)	
	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み、個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し、課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ(社会協調性)	1. 体力・健康づくりの必要性を科学的に説明できる。 2. スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義やマナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。	健康スポーツ科目(○)						英語教育研究法(◎)		
	高度な英語運用能力を獲得している(英語運用力)	1. 外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。 2. 複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解できる。	英語コミュニケーション演習Ⅰ(◎)	英語テキスト精読(○)	英語ボキャブラリー演習(○)	CALL演習(○)	コミュニケーションライティングⅠ(◎)	コミュニケーションライティングⅡ(○)	上級コミュニケーション演習(○)		

教養科目 専門基礎 専門科目 専門選択科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

(2) プログラムの構造 (体系的に理解できる図を示してください)

【プログラム構造図】

基礎教養

第1ステップ 中等教育科学(英語)についての基礎的理解

専門基礎科目 専門科目 専門選択科目 自由選択科目

第2ステップ 中等教育科学(英語)についての基礎的知識・態度

専門基礎科目 専門科目 専門選択科目 自由選択科目

第3ステップ 中等教育科学(英語)についての実践的知識・態度・技能

専門基礎科目 専門科目 専門選択科目 自由選択科目
卒業研究(英語教育研究法)

第4ステップ 中等教育科学(英語)についての総合的知識・態度・技能

専門科目 専門選択科目 自由選択科目
卒業研究(英語教育学研究, 英語学研究, 英語文化学研究)

教養教育科目
32単位

第1ステップ

教養教育科目：

教養ゼミ，平和科目，パッケージ別科目，英語，初修外国語，情報科目，領域科目，健康スポーツ科目，基盤科目

専門教育科目

専門基礎科目：

英語文学概説

英語コミュニケーション演習
I

専門科目：

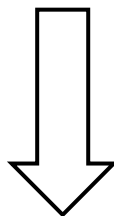
英語コミュニケーション演習
II，英語教師のための音声学，
英語テキスト精読，英語教師の
ためのコンピュータ入門

専門選択科目：

中・高等学校教育実習入門

履修基準（進級基準）

- ・教養教育科目を16単位以上、取得していること
- ・専門科目を10単位以上、取得していること



第2ステップ

教養教育科目：

英語，総合科目，領域科目，
基盤科目

専門教育科目

専門基礎科目：

英語教育学概論Ⅰ，英語学概
説Ⅰ

専門科目：

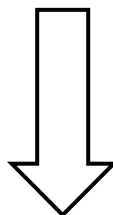
英語教材構成論，英語授業プ
ラニング論，英語教材研究ワ
ークショップ，英語ボキャブ
ラリー演習，英語発音演習，
CALL 演習，現代英語演習，英
語語用法演習，イギリス文学
史講義 A・B，英語教育文法入
門，英語圏エリアスタディ
Ⅰ・Ⅱ

専門選択科目：

教職入門，教育の思想と原理，
教育と社会・制度，特別活動
指導法，生徒・進路指導論，
中・高等学校教育実習観察，
介護等体験事前指導

履修基準（進級基準）

- ・教養教育科目を累計28単
位以上取得していること
- ・専門教育科目を累計46単
位以上取得していること



第3ステップ

教養教育科目

専門教育科目

専門基礎科目：

英語教育学概論Ⅱ，英語学概説Ⅱ，コミュニケーション・ライティングⅠ

専門科目：

英語教育方法論，英語教育カリキュラム論，コミュニケーション・ライティングⅡ，英語史，英語教育文法，アメリカ文学史講義，英語教育教材研究，英語教育のための異文化理解，英語教育史，英語教育評価論，コミュニケーション能力と英語教育

専門選択科目：

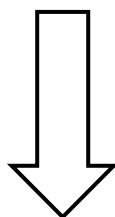
児童・青年期発達論，教育課程論，道徳教育指導法，教育方法・技術論，教育相談，教育実習指導B，教育実習

卒業研究：

英語教育研究法

履修基準（進級基準）

- ・教養教育科目を累計28単位以上取得していること
- ・専門教育科目を累計84単位以上取得していること



第4ステップ

教養教育科目

専門教育科目

専門科目：

上級コミュニケーション演習，
英語教育と文学，英語圏の文化
と社会，現代社会の英語使用

専門選択科目：

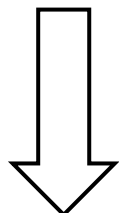
教育実習，教職実践演習

卒業研究：

英語教育学研究，英語学研究，
英語文化学研究，卒業論文

履修基準（卒業基準）

- ・教養的科目を累計34単位以上、取得していること
- ・専門科目を累計94単位以上、取得していること



卒 業

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第三類 英語文化系コース（中等教育科学（英語）プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)														
						1年次		2年次		3年次		4年次								
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ							
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○													
		平和科目	2		2	選択必修	○	○												
		パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○												
	外国語科目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	(0)	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	自由選択	○												
					コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○											
			コミュニケーションⅠ(注3)	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○												
					コミュニケーションⅠB	1		○												
					コミュニケーションⅡA	1			○											
					コミュニケーションⅡB	1			○											
		上記4科目から2科目以上																		
		コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢA	1	選択必修														
				コミュニケーションⅢB	1				○	○										
				コミュニケーションⅢC	1															
		上記3科目から2科目																		
		初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択)	4	ベーシック外国語Ⅰから2科目		1	選択必修	○												
ベーシック外国語Ⅱから2科目				1		○														
情報科目	2	(注4)	2	選択必修	○															
領域科目	(8)	すべての領域から(注5)	1又は2	選択必修	○	○	○	○												
健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○														
基盤科目	(0)		1~3	自由選択	○	○	○	○												
計	32																			

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

・「英米文化事情概論Ⅰ」、「英米文化事情概論Ⅱ」、「英米文化事情概論Ⅲ」及び「英米文化事情概論Ⅳ」を履修することを要望する。

・修得したコミュニケーション基礎及び基盤科目の単位を算入することができる。ただし、基盤科目にあつては4単位を限度とする。

学部履修基準

第三類（言語文化教育系）

○ 英語文化系コース（中等教育科学（英語）プログラム）

科目区分等			要修得単位数	開設学部		
教養教育	教養コア科目	教養ゼミ	2	32	総合科学部ほか	
		平和科目	2			
		パッケージ別科目	6			
	共通科目	外国語科目	英語			6
			初修外国語			4
		情報科目	2			
		領域科目	(8)			
		健康スポーツ科目	2			
	基盤科目	(0)				
専門教育	専門基礎科目		14	96	教育学部ほか	
	専門科目		44			
	専門選択科目		20			
	自由選択科目		12			
	卒業研究		6			
合計			128			

専門教育科目履修基準

第三類 英語文化系コース（中等教育科学（英語）プログラム）

履 修 内 容		要 修 得 単 位 数		開 設
専 門 基 礎 科 目	英語教育学概論Ⅰ	2	14	英語文化系コース
	英語教育学概論Ⅱ	2		
	英語学概説Ⅰ	2		
	英語学概説Ⅱ	2		
	英語文学概説	2		
	英語コミュニケーション演習Ⅰ	2		
	コミュニケーションライティングⅠ	2		
専 門 科 目		44		教 育 学 部 ほ か
専 門 選 択 科 目		20		教 育 学 部
自 由 選 択 科 目		12		教 育 学 部 ほ か
卒 業 研 究		6		英 語 文 化 系 コース

<履修上の注意>

- 『卒業研究』の6単位は、「英語教育研究法」1単位、「英語教育学研究」「英語学研究」「英語文化学研究」の中のいずれかで1単位、「卒業論文」4単位で充てること。
- 『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、12単位まで認める。
- 教職実践演習（中・高）（8セメスター）を履修するためには、原則として7セメスター終了時点で中・高等学校教育実習Ⅰ又はⅡの単位を修得していること。ただし、教職実践演習を受講するセメスターまでに、教育実習の単位を修得できない場合は、同セメスターで教育実習の単位を修得見込みであることを条件に、履修を認める。

第三類 英語文化系コース（中等教育科学（英語）プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開単 設位 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専門 基礎 科目	英語教育学概論Ⅰ	②				2						教科の指導法（英語）	
	英語教育学概論Ⅱ	②					2					〃	
	英語学概説Ⅰ	②				2						英語学	
	英語学概説Ⅱ	②					2					〃	
	英語文学概説	②	2									英米文学	
	英語コミュニケーション演習Ⅰ	②	2									英語コミュニケーション	
	コミュニケーションライティングⅠ	②					2					〃	
専 門 科 目	英語教育方法論	2					2					教科の指導法（英語）	
	英語教育カリキュラム論	2					2					〃	
	英語教材構成論	2				2						〃	
	英語授業プランニング論	2				2						〃	
	英語教材研究ワークショップ	2				2						〃	
	英語コミュニケーション演習Ⅱ	2		2								英語コミュニケーション	
	英語ボキャブラリー演習	2			2							〃	
	英語発音演習	2			2							〃	
	コミュニケーションライティングⅡ	2						2				〃	
	CALL演習	2				2						〃	
	上級コミュニケーション演習	2								2		〃	
	英語教師のための音声学	2		2								英語学	
	英語史	2							2			〃	文学部
	現代英語演習	2				2						〃	文学部
	英語語用法演習	2				2						〃	
	英語教育文法	2							2			〃	
	イギリス文学史講義A	2			2							英米文学	文学部
	イギリス文学史講義B	2				2						〃	文学部
	アメリカ文学史講義	2					2					〃	文学部
	英語教育教材研究	2					2					〃	
英語教育と文学	2								2		〃		
英語教育のための異文化理解	2								2		異文化理解		
英語圏の文化と社会	2								2		〃		

○印は必修

区分	授業科目	開 単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
卒業研究	英語教育研究法	①						2				
	英語教育学研究	1							2			
	英語学研究	1 ①							2			
	英語文化学研究	1							2			
	卒業論文	④										

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 中等学校とその教育に関する基本的理解	中等学校及びその教育に関して十分な理解をもち、教育上の課題を分析し問題解決を図ることができる	中等学校及びその教育に関する基礎的理解に立ち、教育上の課題を指摘することができる	中等学校及びその教育に関する基礎的理解をもっている	別表のとおり
2) 青年期の学習者たちに関する基礎的な理解	青年期の学習者たちに関する十分な理解をもち、青年期の教育上の課題を分析し問題解決を図ることができる	青年期の学習者たちに関する基礎的理解に立ち、教育上の課題を指摘することができる	青年期の学習者たちに関する基礎的理解をもっている	別表のとおり
3) 中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識	中等英語教育の理論と方法に関する十分な理解を持ち、それらを批判的に総合化することができる	中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識をもとに、それらの理解を総合化することができる	中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識をもっている	別表のとおり
4) 中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識	中等英語教育の教育内容に関する十分な理解をもとに、それらの理解を批判的に総合化することができる	中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識をもとに、それらの理解を総合化することができる	中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識をもっている	別表のとおり

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 中等英語教育のカリキュラムを分析したりデザインしたりすることができる	中等英語教育のカリキュラムを批判的に分析・検討し、その問題点や課題を踏まえてデザインすることができる	中等英語教育のカリキュラムを分析・検討し、それを踏まえてデザインすることができる	中等英語教育カリキュラムの基礎的な理解ができる	別表のとおり
2) 中等英語教育の教育内容を分析したり研究したりすることができる	中等英語教育の教育内容に関して、収集した資料や情報を使って批判的に分析し、課題を求めて研究を進めることができる	中等英語教育の教育内容を分析し、問題点を見つけて研究を進めることができる	中等英語教育の基礎的な教育内容を理解し分析できる	別表のとおり
3) 中等英語教育に関連した調査・研究に関して、批判的に分析・検討することができる	中等英語教育に関連して、教育課題を資料・情報に基づいて適切に精査し、批判的に分析・検討することができる	中等英語教育に関連して、教育課題を踏まえて分析・検討することができる。	中等英語教育に関連して、調査・研究の基礎的な理解ができる	別表のとおり

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セマスター
1) 中等英語教育における授業を分析、構想・立案することができる	中等英語教育における授業を、批判的分析に基づき、適切に構想・立案し、教室ニーズに合わせて学習指導案として作成することができる	中等英語教育における授業を、適切に分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる	中等英語教育における授業を学習指導案として作成することができる	別表のとおり
2) 中等英語教育において、適切な教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる	中等英語教育の授業を、目標に応じて適切な教材を選択し、効果的な指導法によって円滑に実践できる	中等英語教育の授業を、教材や指導法を適切に使って実践できる	中等英語教育の授業を、それなりに実践できる	別表のとおり
3) 中等英語教育において、評価計画に基づいて、生徒の学習を評価することができる	中等英語教育において、目標と評価理論を踏まえて評価計画を立て、生徒の学習を適切に評価することができる	中等英語教育において、目標に応じた評価計画に従い、生徒の学習を評価できる	中等英語教育において、評価計画を立てて生徒の学習の評価ができる	別表のとおり
4) 中等英語教育において、教材を分析したり研究したりすることができる	中等英語教育の教材を、批判的に分析したり研究したり、課題を見つけ、新たな教材開発の準備ができる	中等英語教育の教材を、適切に分析し、問題点などの研究を進めることができる	中等英語教育の教材の基礎的な分析や研究ができる	別表のとおり

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1) 個人あるいは共同で中等英語教育に関わる研究を計画・実施し、その成果を効果的に伝えることができる (研究力・プレゼンテーション力)	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる発展的研究を適切に計画・実施し、その成果を十分に整理して、自らの主張とともに効果的に伝えることができる	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる応用的研究を計画・実施し、その成果を十分に伝えることができる	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる基礎的研究を計画・実施し、その成果を伝えることができる	別表のとおり
2) コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を活用することができる。 (情報技術活用力)	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を十分に活用して、必要に応じた様々な統計処理や数値表現ができる	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を利用して、適切な統計処理や数値表現ができる	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を利用して、基礎的な統計処理や数値表現ができる	別表のとおり
3) 多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み、個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し、課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ (社会協調性)	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に積極的かつ主体的に取り組み、個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し、課題の発見および解決に向けて協力する積極的な態度を持つ	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に積極的取り組み、チーム・組織の一員として自らも努力し、課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み、チーム・組織の一員として参加し、課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ	別表のとおり
4) 高度な英語運用能力を獲得している (英語運用力)	高いリーディング力を基礎に、文化の違いを踏まえて、流暢な対話のやり取りだけでなく、口頭や文書での発表力などにおいても、十分なコミュニケーションができ、更にその指導もできる	リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの全般にわたって、必要に応じた十分なコミュニケーションができ、それを指導にいかせる	リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングにおいて、適切なコミュニケーションができる	別表のとおり

区分	授業科目	開設 単位	学期別週授業時数								到達目標の評価項目																				備考			
			セメスター								A(知識・理解)					B(知的能力・技能)					C(実践的能力・技能)					D(総合的能力・技能)								
			1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5					
専門 基礎 科目	英語教育学概論Ⅰ	2			2					/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	英語教育学概論Ⅱ	2				2				/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	英語学概説Ⅰ	2				2				/	/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	英語学概説Ⅱ	2					2			/	/	/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	英語文学概説	2	2							/	/	/	/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	英語コミュニケーション演習Ⅰ	2	2							/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
コミュニケーションライティングⅠ	2	2							/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
専 門 科 目	英語教育方法論	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育カリキュラム論	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教材構成論	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語授業プランニング論	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教材研究ワークショップ	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語コミュニケーション演習Ⅱ	2		2						/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語ボキャブラリー演習	2			2					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語発音演習	2			2					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	コミュニケーションライティングⅡ	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	CALL演習	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	上級コミュニケーション演習	2						2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教師のための音声学	2		2						/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語史	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	現代英語演習	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語語用法演習	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育文法	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	イギリス文学史講義A	2			2					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	イギリス文学史講義B	2				2				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	アメリカ文学史講義	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育教材研究	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育と文学	2						2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育のための異文化理解	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語圏の文化と社会	2						2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育史	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育評価論	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語教育文法入門	2			2					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	コミュニケーション能力と英語教育	2					2			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
	英語テキスト精読	2		2						/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○
現代社会の英語使用	2						2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
英語圏エリアスタディⅠ	2			2					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
英語圏エリアスタディⅡ	2			2					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
英語教師のためのコンピュータ入門	2		2						/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
卒業 研究	英語教育研究法	1					2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
	英語教育学研究	1					2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
	英語学研究	1					2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
	英語文化学研究	1					2		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	
	卒業論文	4								/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○

担 当 教 員 リ ス ト

担当教員名	担 当 授 業 科 目 等	備 考
中尾 佳行	担当授業科目： 英語学概説 I 英語教師のための音声学 英語教育文法 英語学研究 卒業論文 研究室の場所：教育学研究科 C 棟 616 E-mail アドレス：ynakao@hiroshima-u.ac.jp	
深澤 清治	担当授業科目： 英語教育学概論 II 英語教材構成論 英語教育のための異文化理解 英語教育史 英語教育学研究 卒業論文 研究室の場所：教育学研究科 C 棟 613 E-mail アドレス：sfukaza@hiroshima-u.ac.jp	
松浦 伸和	担当授業科目： 英語教育学概論 I 英語教育方法論 英語教育研究法 英語教育学研究 卒業論文 研究室の場所：教育学研究科 A 棟 209 E-mail アドレス：nobukazu@hiroshima-u.ac.jp	
築道和明	担当授業科目： 教養ゼミ 英語教育カリキュラム論 英語教育学概論 II 英語教材研究ワークショップ 英語教育学研究 卒業論文 研究室の場所：教育学研究科 C 棟 617 E-mail アドレス：tsuido@hiroshima-u.ac.jp	
柳瀬 陽介	担当授業科目： 英語学概説 II	

	<p>英語教育文法入門 コミュニケーション能力と英語教育 英語教師のためのコンピュータ入門 現代社会の英語使用 英語学研究 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学研究科 A 棟 207 E-mail アドレス：yosuke@hiroshima-u.ac.jp</p>	
小野 章	<p>担当授業科目： 英語文学概説 英語教育教材研究 英語教育と文学 英語テキスト精読 英語圏エリアスタディ I 英語圏エリアスタディ II 英語文化学研究 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学研究科 C 棟 618 E-mail アドレス：aono@hiroshima-u.ac.jp</p>	
P. ハウエル	<p>担当授業科目： 英語コミュニケーション演習 I 英語コミュニケーション演習 II コミュニケーションライティング I コミュニケーションライティング II 英語ボキャブラリー演習 英語語用法演習 英語圏の文化と社会</p> <p>研究室の場所：教育学研究科 C 棟 614 E-mail アドレス：未定</p>	
檜葉みつ子	<p>担当授業科目： 教育実習指導 B 教育実習指導 C 中・高等学校教育実習観察 中・高等学校教育実習 I 英語授業プランニング論 英語教育学研究 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学研究科 A 棟 211 E-mail アドレス：mkashiba@gmail.com</p>	
兼重 昇	<p>担当授業科目： 英語教育学概論 I 中・高等学校教育実習入門</p>	

	<p>英語教育評価論 英語教育学研究 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学研究科 A 棟 208 E-mail アドレス：kanesige@hiroshima-u.ac.jp</p>	
K. ソング	<p>担当授業科目： 英語コミュニケーション演習 I コミュニケーションライティング I 英語コミュニケーション演習 II 英語発音演習 CALL 演習 上級コミュニケーション演習</p> <p>研究室の場所：教育学研究科 C 棟 615 E-mail アドレス：ksong@hiroshima-u.ac.jp</p>	
地村彰之	<p>担当授業科目： 英語史 現代英語演習</p> <p>研究室の場所：文学研究科 A361 E-mail アドレス：ajimura@hiroshima-u.ac.jp</p>	文学部
吉中孝志	<p>担当授業科目： イギリス文学史講義 A イギリス文学史講義 B</p> <p>研究室の場所：文学研究科 A362 E-mail アドレス：ytakashi@hiroshima-u.ac.jp</p>	文学部
新田玲子	<p>担当授業科目： アメリカ文学史講義</p> <p>研究室の場所：文学研究科 A364 E-mail アドレス：reinita@hiroshima-u.ac.jp</p>	文学部